

2021年度 第42回 大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門
番組部門 結果・講評一覧

【審査員】

井村 慎介	関西テレビ放送（主審）
久下 哲也	大阪府立池田高等学校
酒井 学	大阪府立堺西高等学校
阪本 純治	桃山学院高等学校
濱口 雅教	箕面自由学園高等学校
藤田 大輔	阪南大学高等学校
中井 勝久	大阪夕陽丘学園高等学校（権利処理）

6人の審査員が100点満点で採点し、合計600点で評価しました。

その上で、規定違反(権利処理の不備等)について減点しました。

その得点を基準として、ラジオ番組は上位1つ、テレビ番組は上位2つを優秀賞としました。

また、一定の基準に達している作品を奨励賞としました。

審査員からいただいたコメントをまとめ、「講評など」として掲載しています。

※ 審査番号順に掲載しています。

大阪府高等学校視聴覚教育研究会 放送コンテスト委員会

部門	番号	学校	作品名	評価	権利 処理等	講評など
ラジオ番組	1	堺西	支援の部	奨励	-	<p>主人公は先生？市民？立場が不明で人物像が描けない。この方がどのような人なのか(位置づけ)がなかなかはっきりわからなかった。文化系と一括りにされても何を具体的に支援しているのか不明。部をひとつに絞り、具体的なエピソードを追ってほしい。例えば、放送部員はどんな恩恵をもらっているのか、など。</p> <p>話の構成は自然、掴みもOK。丁寧に竹内さんの話を聞いている印象。ただ、一人のインタビューだけの番組で終わってしまっている。単調で番組の内容が伝わりにくくなっている。生徒自身がどう考えているのかなど変化が欲しかった。「専門」でない顧問の声や、生徒の感じていることも取材できると良い。取材先が1人の人物に限られていて、他の取材音源があれば広がり生まれる。</p> <p>扱うテーマとしてはおもしろいが、総文の基準としては視点がずれている。せめて、冒頭ですっきりと大阪の話題であること強調すべき(大会規定)。</p> <p>取材の音源はよかった。取材音源の切り方・つなぎ方をいねいに(ブツ切り感が否めない)。インタビューとの間の取り方、もう少し聞きやすい間が欲しい。ナレーションとインタビューの間が少なくて落ち着かない。音声の切り替え、もう少し間がある方が、場面の切り替えに聞き手がついていきやすい。</p> <p>原稿の読みをいねいにしてほしい。ナレーションの技術を向上させよう(読み・原稿など)。</p>
	2	箕面自	ホンマ	優秀	-	<p>着眼点がすばらしい。地元の方言を活かした番組制作に挑む放送部の姿を描いたドキュメント。大阪弁のストレートな番組で、よくわかる構成。ラジオの特色を良く生かしている。冒頭ですっきりテーマを示し、地元の話であることが明らか。少しコミカルな導入で聴く者をひきつける。取材が丁寧な印象。関西弁について聞く有識者の人選も適切。きれいな大阪弁、きたない大阪弁は誰が決めるのかというテーマは興味深い。全体の構成もわかりやすく、テーマも面白い。ただ、テーマはおもしろいけど、関西弁のシーンが少なく冒頭だけなので、しかもテーマ設定が後から出てくるので、配列がよくない。内容的にも全国に伝わりにくいと思う(いろんな関西弁を現地で拾って聞かせる、とか)。後半にかけて専門家のインタビューが長く流れるのでやや間延びする。</p> <p>「つかみ」が上手。意外性で聴き手を引きつける。インタビュー面白かった。切り取り方が上手。5分なので仕方ないが、もう1つくらい発見がもりこめると良かった。箕面自由と堺の学校の位置関係がわからないので、部外者にはわかりにくい。</p> <p>「関西弁」は造語、正しくは「関西なまり」。</p>

部門	番号	学校	作品名	評価	権利 処理等	講評など
テレビ番組	1	池田	落語で笑顔に	優秀	-	<p>コロナがテーマの番組かと思ったら、落語の話題という意表を突く導入。コロナの影響と上方落語を合わせる構成は、いいまとまり。前振りから落語ミュージアムへの移り方が違和感なく入り込めた。ただ、笑いが減った→落語ミュージアムの流れは少し強引な気がした。笑いが減ったことと落語ミュージアムのつながりが弱い。落語ミュージアムの紹介一本でも良かったかと。冒頭、「笑いが校内から減った」のくだり、アンケート等、一連のことは「落語で街おこし」とは一切関係ないので不要、カットしても良い。アンケートとらなくても全国民がわかっている。説明不要。その分もっと落語の魅力で時間がさけるはず。</p> <p>地域の話題という点では着眼点が良い。芸文祭のテーマには合ってる。ただ、主人公は誰なのか。ミュージアムの宣伝なのか？出演者の情報少ない。くろみさん何才？講座の生徒さんの達者な受け答えは目を引く。最後の男の子の話しぶりが良いのでこの子を主人公に見たかった。年齢や学年を表示すれば、より驚きがあるかも。</p> <p>生徒への取材、館内の紹介がていねいで好印象。インタビューの取り方が、いい言葉を引き出せていた。取材もいいところがとれてよかった。ただ、笑っている映像が少ない。取材しました、きいてみましたというナレーションはもう工夫を。BGMバランス少し大きい。静止画はもう少し減らしても良い。映像のコマ切れ感が気になる。テロップの場所(顔の横に来るのはどうか)。ラストの音源クレジット表示は必要？</p>
	2	大市立	どこか遠い場所で……	奨励	-	<p>自校の先生の話題で、人物焦点のドキュメント。音田先生の話にはとてもひきこまれる。先生への取材が丁寧で、写真を活用しているのが良い。インタビューの中で先生から「押しつけ」という言葉を引き出したのはすごいこと。音田先生をとりあげるのか、音田先生が伝えたいことなのか、両方を追ったために、やや焦点がぼけてしまった。ドキュメンタリーならば、「先生が伝えたかったこと」に影響されて、具体的に行動に移している生徒を追えると見応えがある。もう工夫を。編集・構成はできている。Nコンだったらいいと思う。</p> <p>郷土(高校)の話題でありながら世界につながっていく視点がおもしろい。しかし、郷土の話題か？といわれると、テーマとしては少し強引な印象。「地域性」のテーマから逸脱している。音田先生のこと、セネガルでのことはよくわかるが、テーマが郷土のこととずれている。自校の話題とも地元の話題とも違うので、芸文祭としてはどうかと思う(NHK杯ならばむしろ良い素材)。</p> <p>音がちょっと良くない(こもり気味?)マルチカメラの割には画角やスイッチングにひと工夫を。カーテンをバックにした先生のインタビューはもう少し先生の視線の向きを工夫しよう。</p> <p>全ての言葉にテロップは不要。キーワードを目立つように工夫してほしい。「当時」テロップには何の情報もない→年号や年令を！</p>
	3	四天東	繋がりの飴細工	優秀	-	<p>地域の魅力的な人物が選べており、テーマに適した取材ができています。飴細工は関西で広がったといわれているので、テーマに合っている。動きのある番組で時間を忘れて見ていられた。ただ、展開があまりにも予想通りで、番組としての意外性が感じられなかった。</p> <p>職人さんへの取材がよくできている。人柄をよく表現している。「人とのつながり」を大切にしているのであれば、それを象徴できる具体的なエピソード、シーンをカメラに収めるべき、それがドキュメント。インタビューでしゃべって終わりでは芸がない。</p> <p>この方と学校との縁はあるのか？あめ細工そのものの映像がもっと欲しかった(画的に)。また細工の難しさのようなことも知りたいと思える内容。あめ細工が大阪の文化とのつながりも教えてもらえれば。あめ細工を通して色々な地域、人々とのつながりができるというテーマは良いが、欲を言えばもう少し「つながり」を持ち出してほしい。人物焦点のドキュメントだが、この職人さんが大阪のどこで活動しているのか、地域との関わりを番組冒頭に明示すると、大会規定の「郷土の話題」に合致するはず。あめ細工講座のやりとりの音を少し生かしてみても？(ナレーションでつぶすのではなく)日本一周の旅、地図や地名を出したらもっと伝わる。</p> <p>ナレーションが少し早口なのが残念。テロップ少し見づらい。校舎の写真がテストパターンなのか？</p>